



国際交流センターの歩み

～グローバル人材育成を目指して～

広島工業大学専門学校
国際交流センター長 鶴 登美子

国際交流のスタート

シンガポール

広島工業大学専門学校は、平成5年3月に初めての海外提携校として国立シンガポール・ポリテクニク（以下「SP」と略す）校と交流に関する覚書を締結しました。同年の11月、SP生10名が広島の企業でのインターンシップを目的として来広しました。本校は、事前に全6週間にわたるプログラムを企画し、企業との調整や宿舎の確保にあたりました。

研修内容は、第1週目を総合ガイダンスとし「日本企業における仕事の流れと組織」「日本語と日本文化理解」について授業を行い、その後の4週間で企業でのインターンシップとしました。そして最終週の第6週目に、インターンシップのまとめとしてのプレゼンテーションと学生交流、市内観光などを実施しました。

インターンシップ先は、三菱重工(株)、(株)クラタ、デルタ工業(株)、(株)ヒロテックの4社で、ご理解とご協力のもと無事に実施することができました。



シンガポールでのボランティア活動 恵まれない方のためのお弁当作り

このインターンシップの共通テーマは、「ものづくり現場における品質管理・改善」でした。企業の担当者を質問攻めにして必死に学ぼうとするSP生の姿勢、逞しさ、行動力、また見事なプレゼンテーションなどに、教員や学生は深く感動しました。そして、国際交流を通じてお互いに学ぶことの意義、重要性を強く認識することとなりました。

翌年の平成6年2月には、本校から8名の学生がSP生との交流や国際理解を目的としてシンガポールを訪れたことにより、相互交流を軌道に乗せることができました。

その後、本校からシンガポールへの研修プログラムは、「研修旅行」からシンガポールにある日本企業での「海外インターンシップ」、6か月間の「短期留学」など、SP校との連携のもとで新しいプログラムを展開することができました。

交流開始から24年目となる今日に至るまで、両校のプログラム参加学生総数は約580名となっています。

新たな国際交流プログラム(1)

マレーシア

SP校との交流と並行して、特色ある新たなプログラム作りに取り組みました。その際、実施したかったのが、本学園が教育方針に掲げている“社会に奉仕する”ことを、学生が身に付けた専門性を持って実行に移すことでした。

そのような中で、マレーシア・サラワク州で、熱帯雨林の環境保全のための植林活動が熱心に行われていることを知り、平成7年8月に現地で治安や植林の実態について調査を行いました。また、現地で環境問題に積極的に取り組んでいる国立サラワク大学を訪問し、早速、交流に向けて協議を行いました。

平成9年3月、正式に交流に関する覚書をサラワク大学と締結し、同年8月には、本校の測量情報工学科（現土木工学科）教員1名が、学生と共に同大学を訪問するとともに、現地での測量実習と植林ボランティアを実施することができました。

また、サラワク大学からは、広島の企業での1回目のインターンシップを平成9年3月に実施しました。

新たな国際交流プログラム(2)

ベトナム、タイ

広島は製造業を中心としてベトナムやタイに進出しており、本校の学生が就職後に活躍する場もアジアになりつつあると感じました。そこで、平成20年9月にベトナムのハノイとホーチミンへ行き、広島から進出している企業とベト

ナムの大学、日本語学校を訪問しました。その中で、現地の学校関係者の方からホンバン国際大学を紹介していただき、飛び込みで訪問し、何とか提携校の承諾を得ることができました。そして翌年の平成21年12月に、提携校の締結とともに第1回目となるベトナム研修旅行を実現させることができました。

シンガポール研修旅行のプログラムと同様に、現地の日本企業で働いている日本人技術者の話を直接聞く機会もプログラムに盛り込みました。文化や価値観の違いを柔軟な思考と工夫で乗り越え、生き生きと働いている技術者の話を受け、学生の中には、将来ベトナムで働きたいという者も現れました。現在までのベトナム研修旅行の参加者総数は21名となっています。

平成27年7月には、タイの国立カセサート大学とも交流に関する覚書を締結することができました。



ホンバン国際大学生との交流

外国人留学生の育成

ブリッジエンジニア

国際交流センターでは、外国人留学生の募集も担当しています。広島県の外国人留学生はこの2～3年増加していますが、大学や専門学校ではなく日本語学校の生徒が増えており、それらの日本語学校においては、大学進学に力が注がれています。広島県においても県内大学への進学を強力に推し進めています。

本校は日本語学校指定校制度による優秀な留学生の確保と育成に、初めてベトナムを訪問した平成20年から取り組みを始めました。大学より短い期間で専門的技術と資格を修得でき、確実に日本企業に就職できることをアピールしました。

平成23年4月、ホーチミンにある在外の日本語学校指定校よりベトナム人留学生2名が入学し、2年後には、広島の企業へ就職させることができました。その後も現在に至るまで、留学生全員が広島の企業に就職しており、その専門力は企業から高く評価されています。将来は企業の幹部候補となり、母国と日本を繋ぐブリッジエンジニアとして活躍できる日も近いのではと期待をしています。

課題は国際交流スタッフの育成

国際交流センターは、前述したように、「提携校からの学生受入れと本校学生の提携校への送り出し」「外国人留学生の募集」の両方を担当しています。今後、さらなるプログラムの充実と留学生数の増加を図るためには、マ

ンパワーが必要であり、国際交流スタッフの力量向上が課題となります。

国際交流スタッフという「英語ができる」「留学経験がある」人材が適していると思われがちです。しかし、本校は相手校にとって多くの提携校の中の一枚にすぎないという現実に照らせば、スタッフは当然ながら、交流を継続するに足る信頼関係を構築し維持できる人材となります。

誠意が伝わるよう表敬訪問を欠かさず行い、コミュニケーションを怠らないこと、毎回、交流プログラムの点検・評価を行い、改善提案を積極的に相手校に示すこと、相手校の反応を見ながら相手校のスピードに合わせて決断ができることなどが本校として必要な能力・センスなのです。

このような国際交流スタッフを今後、育てていけるかどうか大きな課題となっています。

あるべき姿の追求を

海外交流を開始して24年が経ち、その間にシンガポールは経済や教育、IT競争力の上で日本を追い抜いていきました。また、ベトナムをはじめとするアジアの国々も急速な発展を見せています。世界の情勢は刻々と変化しています。今後、ますます必要とされるグローバル人材を育成すべく、中長期的な視野に立ち、国際交流センターとしてあるべき姿を追い続けたいと思います。